

ネコヤナギ

ネコヤナギの花芽が、越冬用のかたい皮を脱ぎすてて、銀色の綿毛をふくらませ始めました。待ちどおしかった春のきざしです。今月の終わりか来月の初め頃から咲き始めるでしょう。その頃はセツブンソウやユキワリイチゲなどの可憐な花に目が向いてしまい、地味なネコヤナギの花は忘れられがちですが、近づいてよく見るとおもしろいことに気づきます。



ネコヤナギは雌雄異株で、小さな花があつまった花穂をつけます。花びらもガクもないため、雄しべや雌しべが綿毛の皮を突き破って伸び出してきたとき、開花したとわかります。そんな咲き始めの頃、それまでまっすぐ立っていた花穂が反りかえり、その先端が北を指します。少しの温度差にも敏感で、陽当たりの良い南側から咲き始めるからです。

写真は数年前に撮影した、咲き始めの雄花です。雄しべの先の葯は紅色で、やがて黄色い花粉を吹き出します。地味な花なので風媒花のように見えますが、虫に受粉を託す虫媒花だそうです。雄しべや雌しべの根元に蜜腺があって、虫を誘います。春とは言ってもまだまだ肌寒い頃、いったいどんな虫が飛んでくるのでしょうか。